2008 National Training Center U-12

より良いU-12年代からのサッカーを求めて

基本の重要性・Japan's Way

---

サッカーというゲームの方向性を見ることは非常に重要なことです。
なぜなら、選手は昨日のサッカーに向けて準備させるのではなく、将来のサッカーに向けて準備させなくてはならないからです。

アンディ・ロクスブルク

2

---

世界をスタンダードとした強化策の推進

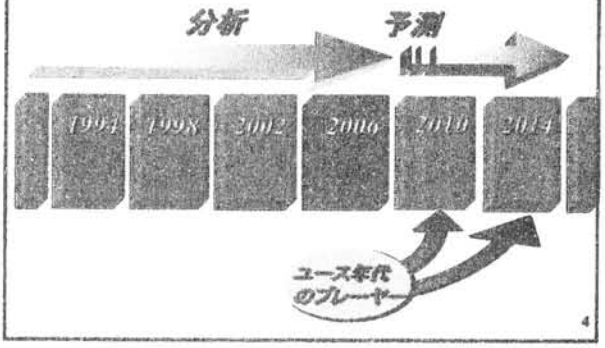
世界のトレンドを見ることの重要性

歴史としてではなく、近い将来を予想し、それに向けて子ども達を準備させる

3

---

ワールドカップの分析




4

---

世界のサッカーの分析

世界基準に合わせる！

将来への示唆 ⇒ U-12/14/16

Japan's Way

5

---

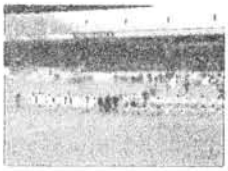
「ゲームはよりスピーディーに、よりテクニカルになってきている。そしてこれからもその傾向は続くだろう。」

アーセン・ヴェンゲル

6

## DVD

- 基本の重要性



7

## Japan's Way

「サッカーをしよう」～より多くの選択肢を持つ～

サッカーすることによって、そのゲームの中で
より効果的な関わりができる「個」の育成を追求

攻守において主導権を握る

攻撃・守備に関係なく、より多くの選択肢を持つ

～動きながら～

- 「観る」
- 「スキルの発揮」
- 「関わり続ける」
- 「アクションを起こす」

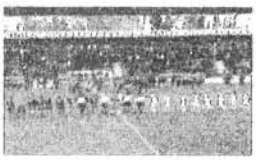
情報量の情報の
インプット／アウトプット

8

## DVD

- Japan's way

U-13・14年代のサッカー



9

## ワールドカップドイツ大会からの日本の課題

○ボールを保持しながら積極的にゲームを支配
- 的確な状況判断
- アクション(動きの習慣)
- シンプルな技術の質(ファーストタッチ、パススピード)
- 動きながらのテクニック(スキル)

**日本は特別な事で負けたのではなく**

**シンプルな技術と動きの習慣が不足していた。**

11

## テクニック・判断力・運動量(持久力)

「動きながらのテクニック」

「動きの習慣化」

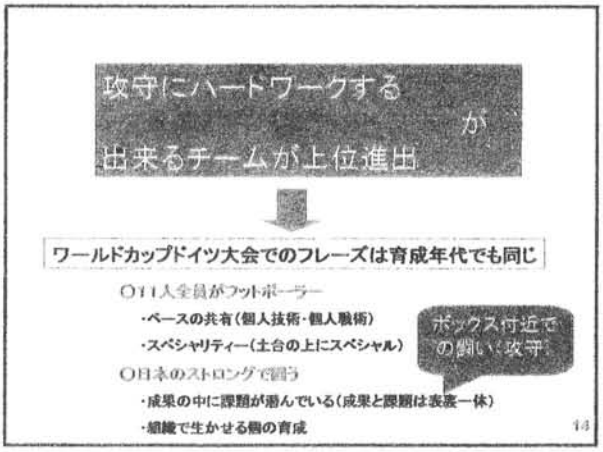
「状況を観る・判断する」

大人になってからでは・・・

育成年代でこそ、
身につけられる！

12

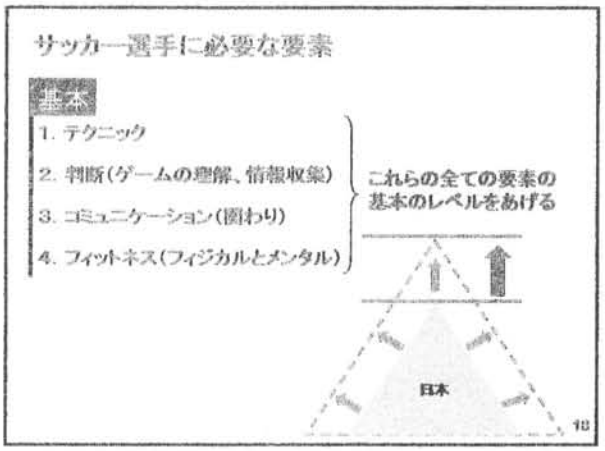
FIFA U-17/U-20 WORLD CUP 2007
JFA TECHNICAL REPORT
FIFA
CHAMPIONS


攻守にハードワークする
が
出来るチームが上位進出
ワールドカップドイツ大会でのフレーズは育成年代でも同じ
○11人全員がフットボーラー
・ベースの共有(個人技術・個人戦術)
・スペシャリティー(土台の上にスペシャル)
ボックス付近での闘い(攻守)
○日本のストロングで闘う
・成果の中に課題が潜んでいる(成果と課題は表裏一体)
・組織で生かせる個の育成
14

WORLD CUP
15

UEFA EURO
ゲームは
よりテクニカルに
よりスピーディーに
よりタフに
基本のベースの土台に個性を発揮

UEFA EURO
どの年代でも、どのレベルでも
A代表のコンセプト(その国の
目指すサッカー)がプレーされて
いるか?
大会MVP MFシャビ
GKカシージャス
DFマルチェナ
1998年U-20優勝
MFイニエスタ 2003年U-20準優勝
MFセスク
MFシルバ
2003年U-17準優勝
17


サッカー選手に必要な要素
基本
1. テクニック
2. 判断(ゲームの理解、情報収集)
3. コミュニケーション(関わり)
4. フィットネス(フィジカルとメンタル)
これらの全ての要素の
基本のレベルをあげる
日本
18

## 日本の進むべき方向性

それをU-12年代であっても意識することの意義

分析 ⇒ 短・中・長期のアプローチ

代表はそのときの選手を単に集めて闘うだけではない。

将来に向けてのベース

U-12の指導者もサッカーを知る・理解することが重要
（ただしインプット／アウトプット）

19

## 日本サッカーの育成の課題

基本とは

1. 日本人の特長を生かし、日本の良さを最大限に生かすサッカーの追求

Japan's Way

20

## 現代日本の特徴・・・外から見た日本の印象も含めて

社会
中産階級社会、高学歴社会、進路選択の多様性、
少子化傾向、家庭 学校の「しつけ」の低下

身体特徴
体格的↓、アジリティ／スタミナ↑、器用

メンタリティ
勤勉、忍耐強さ(移民の例etc)、チームワークの尊重
模倣からの発展/創出(ものづくり)、武士道精神

サッカー環境
先進国と距離、多スポーツ、遊び場所減少／学校施設の充実、
多くのサッカー仲間の情熱⇔ストリートサッカーの環境メンタリティはない

21

## 日本サッカーの育成の課題

基本とは

2.「1対1の攻守が弱い」ことを克服するために、
チームメイトとの効果的なかかわり、選択肢のある中で個人が効果的に状況を打開できるようにする

22

## 日本サッカーの育成の課題

基本とは

3. 動きながらの技術の精度を上げる

23

## 日本サッカーの育成の課題

基本とは

4. ゲームの主導権を握るために
①ボールに寄る
②パスしたら動く
といった基本の徹底を図る

24

## 日本サッカーの育成の課題

基本とは

5. トレーニングでは克服すべき課題の個々のテーマに固執するのではなく、
サッカーをすることをトレーニングの中心課題とする

25

## 日本サッカーの育成の課題

基本とは

6. どんな状況においても、プレーを続ける強い意志を持つたくましい選手を育成する

26

## 日本サッカーの育成の課題

全般

基本の徹底

ミスを恐れない
結果ではなく過程
自分たちでやる機会
ゲームをつくる経験
好き嫌いをしない食生活
規則正しい生活習慣

27

## 各カテゴリー テーマの考え方

| | | |
|---|---|---|
| [illegible] | ベース<br>基本をしっかり身につけさせる<br>テクニック<br>サッカーをする | 関わる<br>より多くの選択肢を持つ |
| [illegible] | 技術、判断<br>より意図的に<br>16の前段階としての準備<br>グループのイメージ | 質の高い選択肢 |
| [illegible] | ゲームを有利に進める<br>意図をもって ゴールを奪う<br>ボールを効果的に運ぶ、シンプルに動かす、全員が関わる<br>ボールをいかに早く奪うか<br>関わりの人数、質が高まる | 意図のある選択肢 |

28

## トレーニングのテーマに対する考え方

[illegible]

テーマというよりサッカーであり「基本」
テクニック、持久力、判断力
基本(テクニック、判断、コミュニケーション、フィットネス)
ドリル ⇒ ポゼッション ⇒ ドリル ⇒ ゲーム
ドリルでは見せかけでない反復で技術をしっかり身につけさせる
フィニッシュは特化
あとはテクニックのベースを判断をともなう中で反復させる
どのセッションも複合的に

29

## U-12の考え方

ベーシックなドリルを継続
動きながらの技術の習得にフォーカスを続ける
トレーニングのオーガナイズをよりシンプルなものに
しっかり数多く反復できるようにする。
(壁打ち、対人パス等含む ⇒ 止める、蹴るの徹底 … 日本の弱点)

シンプルな中でのアプローチ 徹底

ドリルの反復とゲーム
判断力へのアプローチとしてゲーム(3対2等)

素の部分を満たす(認めてあげる、違うことも教える)
素の子どもは仕掛けるはず。
オーガナイズでも工夫

30

## U-12の考え方

原則(役割)の理解(ポゼッション)

個人戦術の理解のための「関わり」、「オフ」をU-12でもやる。
ポジションの取り方をポゼッションでのポジショニングで教える。

サッカーをより大きくとらえる。
小さな部品の寄せ集めではなく、大きなところから捉えると考える。
狙いはあっていいが、あまりこだわりすぎず、サッカーをさせる

31

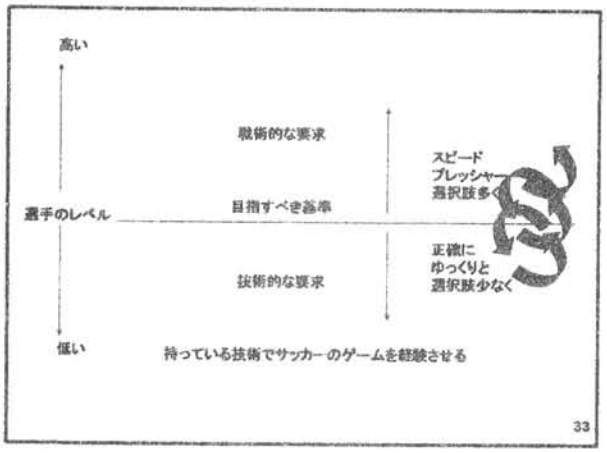
## ポゼッションに対する考え方

原則

先の年代で意図的に攻めるための立ち位置をU-12から教えるべき。
個人戦術の理解のためのポジションの取り方をもっと教えるべき。

基本はしつけなのだから教え込むべきところ。

32




33

## 育成年代のサッカー

成功のためのクオリティー

必要不可欠なクオリティー：
テクニック

必然的に関わってくる要素：
スピード
もしくは /かつ
持久力
(有酸素性)

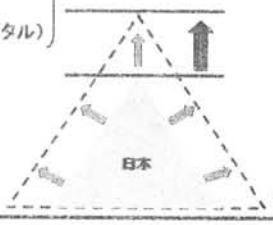
34

## サッカー選手に必要な要素

基本

1. テクニック
2. 判断(ゲームの理解、情報収集)
3. コミュニケーション(関わり)
4. フィットネス(フィジカルとメンタル)

これらの全ての要素の基本のレベルをあげる




36

## 第32回　全日本少年サッカー大会

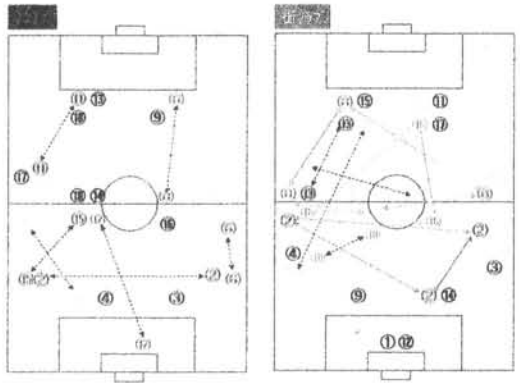
**ボールの保持（ポゼッション）を失わないで攻めることへの挑戦**

➡ 蹴り込んでこぼれ球を拾う戦略では勝てなくなってきている

**育てながら，勝つことに挑戦**

➡ さまざまなポジション　多くの選手がプレー

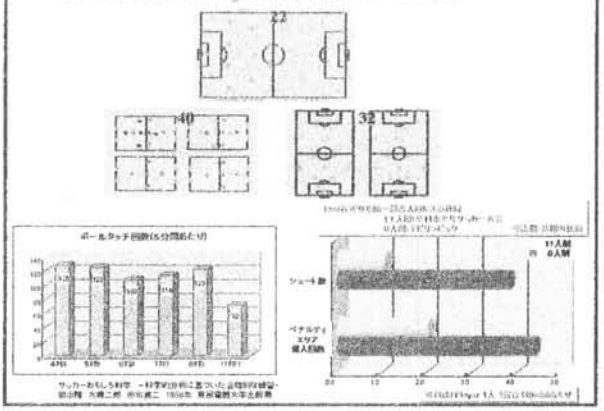
37



38

## 全日本少年サッカー大会における大人向け啓蒙キャンペーン

39

## こどもの大会における大人向け啓蒙キャンペーン

## *Maximum Participation, Maximum FUN*